

## I 調査の概要

# 1. 本事業のテーマ

『高大連携の在り方に関する調査研究』

障害のある生徒の進学・支援のための高大連携の在り方に関する調査研究

—諸外国の高等教育機関における先進事例の検討—

## 2. 本調査の趣旨

現在大学に進学してくる障害のある受験生は増大傾向にある。したがって、大学としても現在高校に在学する障害のある生徒の実態などについて、積極的に調査をしていく必要があると考えられ、昨年度においては、わが国の高校・大学において障害のある生徒・学生においてどのような支援がなされているのか実態調査を行なった。

一方、諸外国においては障害のある学生の実態について、アメリカでは、ロチェスター工科大学、カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、ワシントン州立大学などが、高校生を対象にサマーキャンプを開いて移行支援プログラムを行っており、「メンター」制度や卒業生を活用した「アルムニ」制度、さらには同じ障害をもつ専門家による「専門的メンター」制度など様々な取り組みを行なっている。

わが国においても、高校から大学への移行支援が注目され、東京大学のDO IT JAPANプログラム(障害のある高校生・高卒生のための大学体験プログラム)、広島大学の「障害のある中高生のための大学進学サポートセミナー」といった取り組みが見られるようになった。

しかし、本学のある北海道・東北地方でのこうした取り組みは皆無で、今後宮城教育大学が東北・北海道地区のモデル校として機能するためにも、こうした先進事例の知見をどのように活用していくかが大きな課題ともなり、そのための検討資料の蓄積が重要となる。

そこで、今回は諸外国における大学の障害のある学生に対する支援の実際や、障害のある生徒を大学に進学させるために高校と大学がどのような連携を行なっているのかについて調査を行ない、高校と大学の連携の在り方について検討することを目的とする。

## 3. 調査の概要

(1) 障害学生支援に実績のある先進諸国の実態調査を行なった。

調査先は、以下のところである。

【アメリカ合衆国】

調査期間：2010年2月15日～2月25日

Ohlone College(オーロニ大学)

California State University, Northridge (カリフォルニア州立大学ノースリッジ校)

California School for the Deaf, Fremont (カリフォルニア州立フリーモント聾学校)

Marlton School, Los Angeles (マールトン学校)

Greater Los Angeles Agency on Deafness (ロサンゼルスろうコミュニティセンター)

本調査を行なうに当たっては、本学特別支援教育講座、しょうがい学生支援室・聴覚しょうがい部会員の松崎丈准教授が調査に当たった。

【スウェーデン】

調査期間：2010年2月15日～2月25日

Örebro universitet (オレブロ大学)

Risbergskaskolan (リスベスカ高校)

Virginskaskolan (ヴィルギンスカ高校)

Tullängsskolan (トレランス高校)

Linné universitetet (リンネ大学：Linnaeus University)

Stockholms universitet (ストックホルム大学：Stockholm University)

本調査を行なうに当たっては、本学特別支援教育講座の菅井裕行教授および本学特別支援教育講座・しょうがい学生支援室員の藤島省太が調査に当たった。